

甌島国定公園（仮称）

指 定 書

（環境省原案）

平成 年 月 日

環 境 省

## 目次

1 指定理由 .....	- 1 -
2 地域の概要 .....	- 2 -
(1) 景観の特性 .....	- 2 -
ア 地形、地質 .....	- 2 -
イ 植生・野生生物 .....	- 3 -
ウ 自然現象 .....	- 4 -
エ 文化景観 .....	- 4 -
(2) 利用の現況 .....	- 4 -
(3) 社会経済的背景 .....	- 5 -
ア 土地所有別 .....	- 5 -
イ 人口及び産業 .....	- 5 -
ウ 権利制限関係 .....	- 7 -
3 公園区域 .....	- 9 -

## 1 指定理由

甑島は、鹿児島県の薩摩半島の西方約 30km の東シナ海海上に位置し、上甑島、中甑島、下甑島の三島とその属島群によって構成され、北北東から南南西方向に連なる全長約 35km、全幅約 11km の地域である。当該地域は、海食崖が連綿と連なり、砂洲と潟湖群、リアス海岸など、多様な海岸景観を有するとともに、海岸部から最高で標高約 600m の稜線部まで照葉樹林が発達しており、優れた自然の風景地となっている。

これらの区域の一部は、昭和 56 年 10 月 1 日に、鹿児島県自然公園条例に基づき、陸域の 2,459ha が甑島県立自然公園に指定されたが、指定に際しての学術調査においては、海岸景観、植物景観、海中景観などを総合すると国定公園級の景観要件を備えているとの評価を受けていた。平成 13 年 12 月には甑島周辺沿岸が日本の重要湿地 500 に、平成 22 年 9 月には上甑島の<sup>なまこいけ</sup>海鼠池及び貝池がラムサール条約湿地潜在候補地に選定されるなど、その自然環境は高く評価されている。また、平成 21 年 5 月に鹿島断崖に見られる特異な地質構造である「甑島の白亜紀—古第三紀層」が日本の地質百選に選定され、さらに平成 24 年 5 月には「甑島の鹿の子断層」が日本の地質構造 100 選に選定された。

具体的には、上甑島・下甑島の西部及び下甑島の南部の海岸線には、切り立った海食崖地形が連なり、またここには随所に高さ 100～200m にも及ぶ断崖や奇岩が見られる。こうした特異な地形的特徴によって、断崖上の海岸風衝低木林、後背の照葉樹林からなる山林が豊かに生育し、この島特有の海岸景観が形成されるに至った。この断崖や奇岩を形成する地層は、主として、約 8,000 万年前の上部白亜系堆積岩からなる姫浦層群によって構成され、砂岩頁岩互層からなる美しい横縞模様が見られる。

一方、上甑島・下甑島の東部及び中甑島では、植生が海岸付近にまで及び、礫や砂礫の浜も見られるなど、穏やかな海岸景観となっており、上甑島の浦内湾では、リアス海岸も見られる。

上甑島北部には、長目の浜と呼ばれる礫で形成された約 4 km に及ぶ大規模な砂洲があり、この砂洲によって海と隔てられた潟湖群が連なる景観は、砂洲上に形成されているウバメガシ群落や後背の照葉樹林からなる山林と相まって、特異で優美な海岸景観を呈している。また、上甑島の東側の海域で多島海景観を呈している野島、近島等の属島群は、ウチヤマセンニュウなど希少鳥類の重要な生息地であるとともに、周辺海域では発達したサンゴ群集が見られる。また、下甑島の鹿島断崖は、ウミネコの繁殖南限地となっている。

以上のことから、甑島及びその周辺海域について、海食崖の連なり、砂洲と潟湖群、リアス海岸等の多様な海岸景観を風景型式として、これらと一体的な景観をなす照葉樹林や希少野生生物の生息・生育地としても重要な地域等を、国定公園に指定するものである。

また、本国定公園のテーマを、「太古の地球を感じる宝の島」として、海食崖、海食洞、岩礁、砂洲と潟湖群、リアス海岸、多種多様な化石、海岸植生、希少野生生物の生息・生育地、多島海、サンゴ群集等の景観要素からなる風致景観を保全するとともに、

これらの適切な利用を推進するものである。

## 2 地域の概要

甬島は、鹿児島県の薩摩半島の西方約 30km の東シナ海海上にあって、東経 129 度 39 分～130 度 0 分、北緯 31 度 37 分～31 度 53 分間に位置し、北北東方向から南南西方向に約 35km にわたって連なる列島で、上甬島、中甬島、下甬島の有人三島とその属島群で構成される。総面積は、117.56 km<sup>2</sup>で、上甬島 44.14 km<sup>2</sup>、中甬島 7.30 km<sup>2</sup>、下甬島 66.12 km<sup>2</sup>となっており、基礎的な地方公共団体は、薩摩川内市である。

上甬島と中甬島の間には、無人島の中島があり、上甬島と中島は甬大明神橋（平成 5 年開通）で、中島と中甬島は鹿の子大橋（平成 2 年開通）でつながっている。また、中甬島と下甬島をつなぐ藺牟田瀬戸架橋の整備が、現在、進められているところである。

### (1) 景観の特性

#### ア 地形、地質

海底地形を概観すると、甬島は、天草諸島から続く地形的な高まりが海上に出たものであり、北北東－南南西方向に雁行した 2 本の横ずれ断層にはさまれた地塁である。そして上甬島、中甬島は、主として上部白亜系及びこれを不整合に覆う古第三系の砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層によって形成され、その地形はなだらかな起伏地形である。これに対し、下甬島は堆積岩に加えて大規模な酸性火山岩類や花崗岩類によって標高約 400～600m の山地が形成され起伏に富んだ地形になっているなど、多様な地質構造を見ることができる。また、平成 25 年 2 月には、下甬島の姫浦層群の地層から、白亜紀後期の草食恐竜ケラトプス類の歯の化石が発見されている。このケラトプス類のアジアでの生態史および進化史は、まだ明らかになっていない点も多く、これはきわめて貴重な発見であると高く評価されている。これに加え、島内ではアンモナイト、二枚貝、ウニ、イノセラムス、カキ、生痕化石など多様な化石類を見ることができ、ここは中生代や古第三紀の地球の息吹を感じることができる。

海岸線は変化に富んでおり、波の浸食を受けて発達した海食崖や波の浸食を受けずに残ったリアス海岸、波の作用で堆積した礫で構成される砂洲などが見られる。

特に、上甬島と下甬島の西海岸で発達した海食崖は特徴的で、上甬島では唐船ガトモから境瀬まで約 7km にわたって、下甬島では円崎から釣掛崎まで約 38km にわたって、高さ 100～200m の断崖が連なっており、奇岩や大岩も数多く点在し、発達した海食洞も見られる。

また、上甬島の北部にあり代表的な景勝地となっている長目の浜は、長さ約 4 km にも及ぶ砂礫州が発達している。この砂礫州は、河川性のものではなく、砂礫の分布状態から、北西部の海食崖から砂礫が供給され、縄文海進以降の海面低下に対応して形成されたと考えられている。この砂礫州によりリアス海岸が閉じて、長目の浜では海鼠池、貝池、鉾崎池の 3 つの潟湖が形成されたものと考えられる。

## イ 植生・野生生物

甌島の植生はかつて里山であったため、スタジイやタブ、マテバシイの二次林が多くを占めている。島全体ではミミズバイースタジイ群集、イスノキーウラジロガシ群集やムサシアブミータブノキ群集などのヤブツバキクラス域の自然植生が点在する。

海岸部には風衝低木林のトベラーウバメガシ群集やマサキートベラ群集が発達する。

このほか、上甌島では須口池、鋤崎池、貝池、海鼠池などの湿地に、シオクグ群集やヒトモトススキ群集、ヨシ群落などの塩沼地植物群落が分布するほか、海岸の砂礫地には小規模の砂丘植物群落も分布する。長目の浜の礫洲上では、砂礫地に発達することが珍しいとされるウバメガシ群落が発達しているほか、連続したツメレンゲ群落や国内最大級のハマナツメ群落が見られる。

中甌島では、カノユリノ保護のために行われている野焼き等により、他の2島と比べてススキ草原が多く分布する。

下甌島では、標高が比較的高く、尾岳(604.3m)、谷山(446.4m)、口岳(487.9m)、勝山(391m)等が南北に脊梁をなし、自然林が残存している。瀬尾崎周辺には、ヘゴの自生するタブノキ林があり、ヘゴ自生北限地帯として国の天然記念物に指定されている。

甌島の象徴でもあり、薩摩川内市の市花にも制定されているカノユリは、全島にわたって自生している。

甌島の植物相は、南方系と北方系の種が入り混じっており、シマイズセンリョウやハママンネングサなどの南方系植物種の北限となっているものや、ホタルブクロやニシノヤマタイミンガサなどの北方系植物種の南限となっているものが見られ、さらに、中国大陸や朝鮮半島に起源を持つダンギクやダルマガクなどの満鮮系植物種も見られるなど、多様なものとなっており、甌島は、植物地理学上重要な地域とされている。

鳥類では、長目の浜において、チュウサギ(準絶滅危惧。環境省版レッドリスト平成24年(公表)による。以下同じ。)、クロツラヘラサギ(絶滅危惧ⅠB類)、ミサゴ(準絶滅危惧)、ハイタカ(準絶滅危惧)、サシバ(絶滅危惧Ⅱ類)、ハヤブサ(絶滅危惧Ⅱ類)、セイタカシギ(絶滅危惧Ⅱ類)、カラスバト(準絶滅危惧)などが確認されているほか、上甌島東部の属島群はウチヤマセンニュウの繁殖地となっており、ミサゴ、ハヤブサ、カラスバトなども見られる。また、下甌島西海岸の岸壁ではハヤブサ、沖の岩礁ではミサゴの営巣がそれぞれ見られ、鹿島断崖はウミネコの繁殖南限地となっている。

魚類では、上甌島北部の潟湖群において、メダカなどの淡水魚、回遊魚であるオオウナギ、ボラなどの汽水魚、キスなどの海水魚が生息し、湖沼ごとに異なる分布が見られる。なお、貝池には約30億年前のバクテリアであるクロマチウムが生息し、学術的に注目されている。

昆虫類では、甌島固有種であるコシキトゲオトンボのほか、タイワンツバメシジミ

(絶滅危惧 I B 類)、アオイトトンボ (絶滅危惧 I B 類)、クロツバメシジミ (準絶滅危惧) 等が生息している。クロツバメシジミは長目の浜や熊ヶ瀬鼻に群落が見られるツメレンゲを食草としている。

海域では、上甕島東部の属島群を構成する松島、筒島、野島周辺海域において、ミドリイシ等のサンゴが発達し、被度 50%を超えるサンゴ群集が見られる場所がある。

#### ウ 自然現象

甕島は、東経 129 度 39 分～130 度 0 分、北緯 31 度 37 分～31 度 53 分の間に位置し、沿岸を通る対馬暖流の影響を受ける海洋性の気候である。気象庁の中甕地域気象観測所における年平均気温の平年値(1981 年～2010 年)は、18.1 度と温暖であるが、冬季は、西側の沿岸では、季節風の影響を強く受ける。

#### エ 文化景観

甕島の名前の起源は、甕(蒸し器)型の大岩を甕大明神と崇めたことから始まっているとされており、上甕島へタノ串にあるその大岩は、現在も、ご神体として祀られている。日本人が古くから持っている巨岩崇拜と生命を維持するための穀物を蒸す道具である甕に対する信仰とが結びついたものであるとされている。

また、甕島では、夏になると白やピンク色の大きな花を咲かせる芙蓉が見られるが、かつては、この芙蓉の木の皮の繊維を使う「ビーダナシ」と呼ばれる芙蓉布が織られており、現在は、この伝統文化を復活させようとの取組がなされている。上甕島里町に伝わる十五夜の伝統行事「かずらたて」は、山に入り、葛(くず)の蔓(かずら)を切り出して大綱が作られている。甕島の全域で見られるカノコユリは、かつては観賞用として海外に輸出され、島の経済を支えるなど、暮らしとともにあった花であり、今も島の象徴として大切にされている。このように、人と自然が深く関わってきた暮らしの風景が見られる地域である。

#### (2) 利用の現況

甕島を訪れる観光客数は、年間延べ約 58,300 人(平成 23 年度)、宿泊者数は、年間延べ約 35,400 人(平成 23 年度)で、過去 3 年間では、観光客数は増加の傾向が見られ、宿泊者数は年間約 35,000 人程度で推移している。交通手段は海路のみで、高速船は、薩摩川内市の川内港と上甕島の里港間を 40 分、下甕島の長浜港間を 70 分で結び、定期フェリーは、いちき串木野市の串木野新港と上甕島の里港間を 75 分、下甕島の長浜港間を 100 分で結び、1 日あたりそれぞれ往復 2 便が運航されている。島内交通は、コミュニティバスのほか、タクシー、レンタカー、レンタルバイク、レンタサイクルがある。平成 25 年度には、薩摩川内市が持続可能な環境保護と観光振興の両立したエコアイランド化を目指し、一人乗り電気自動車(超小型モビリティ)をレンタルする「甕島電気自動車(EV)レンタカー導入実証事業」が実施されている。

利用形態は、長目の浜や鹿島断崖などの断崖、ナポレオン岩などの景勝地を島内各所にある展望所から眺望したり、中甑漁港や手打漁港から出港する観光船により、海側から間近に断崖や海食洞、奇岩を眺望するなど、海岸景観の探勝が一般的である。

そのほか、里港から出港する水中展望船によるサンゴ群集や熱帯魚の海中探勝、シュノーケリングやスキューバダイビングによる海中景観の探勝が体験でき、市の浦キヤンプ場においては、シーカヤックの利用（夏季）が行われている。

上甑島と下甑島には、キャンプ場が4ヶ所あり、海水浴や森林浴など甑島の自然を満喫することができる。

また、釣り場としても注目されている甑島は、船釣りや磯釣りなど島全体に釣り場があり、年間を通じてメジナ、イシダイ、アオリイカなどを対象にした様々な釣りが楽しめ、特に冬場のシーズンには全国から人が集まる。

### (3) 社会経済的背景

#### ア 土地所有別

本区域は、公園区域 5,447ha（陸域）のうち、国有地 28ha（0.5%）、公有地 3,365ha（61.8%）、私有地 1,768ha（32.5%）、不明 286ha（5.2%）であり、公有地の本区域全体に占める割合が大きい。

#### イ 人口及び産業

甑島の人口は、住民基本台帳によると平成 25 年 4 月 1 日現在で 5,253 人、地区別では、里地区 1,268 人、上甑地区 1,438 人、鹿島地区 460 人、下甑地区 2,087 人となっている。

年齢構成は、14 歳以下の人口が 494 人（9.4%）、15 歳から 64 歳までが 2,421 人（46.1%）、65 歳以上が 2,338 人（44.5%）となっている。15 歳から 64 歳までの人口が 65 歳以上の人口より多少多くなっている。人口推移は、男女、年齢を問わず減少傾向にある。

産業別の就業者数は、平成 22 年の国勢調査によれば、第一次産業は 286 人（12.3%）で大半が水産業である。第二次産業は 452 人（19.4%）で建設業が多く、第三次産業は 1,587 人（68.3%）で医療・福祉関係または公務に関する業種の就業者が多く、甑島では鹿児島県の平均（67.2%）と比較しても第三次産業が大きな割合を占めている。

農業は、甑島の地形が急峻であるため、耕地は少なく、台風や冬場の強い季節風の影響を受けやすい条件のなかで営まれている。放牧形態による肉用牛や水稻、焼酎用さつまいも、そらまめ、パッションフルーツが生産されている。近年はばれいしょ、たまねぎの生産振興が図られているものの、過疎化の進行により担い手は減少し、耕作放棄地は増加傾向にある。

林業は、森林面積が 8,956ha で、このうち人工林は 1,260ha であるが、現在は施業されていない。その他は二次林や天然林で占められ、このうちツバキ林が 155ha ある。

特用林産物としては、しいたけ、ツバキの実、木炭等が生産されている。

水産業は、周辺海域がアジ、サバ、ブリ、キビナゴ、バショウカジキ等の水産資源が豊富な好漁場であることから、甑島における主要産業となっており、これらの資源を活用した定置網漁業をはじめ、キビナゴ流し刺網漁業や一本釣等の漁船漁業が盛んに営まれているほか、クロマグロ、カンパチ等の養殖も行われている。また、周辺海域の一層の活用を図るため、ヒラメ、アワビ等の種苗の放流や魚礁等の設置による漁場造成、アワビ、キビナゴ等の資源管理型漁業が推進されている。

甑島漁業協同組合では、地域特産魚であるキビナゴを急速凍結した鮮度の高い商材、海洋深層水を使ったアジ、サバの塩干品などが製造・出荷されている。

その他、甑島は本格焼酎、水産加工品等の魅力的な特産品に恵まれており、特産品製造企業や小規模事業者等による新商品開発や販路開拓、県外大消費地へのアプローチが積極的に取り組まれている。また、九州で唯一取水されている海洋深層水を積極的に利用し、清涼飲料水、塩・にがりなどの製造・販売に取り組んでいる。

観光業は、平成 16 年に薩摩川内市により「薩摩川内市甑島水産観光促進補助金に関する条例」が制定され、甑島地域において水産業及び観光業等の事業を営み、又は営もうとする個人や事業者には事業費の一部を補助し、甑島地域の水産業及び観光業の振興が図られている。

ウ 権利制限関係

(ア) 保安林

(公有林)

種 類	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
土砂流出防備	鹿児島県薩摩川内市里町里地内	17	昭 61. 5. 12 平 6. 2. 10 平 7. 11. 27 平 8. 9. 11 平 9. 6. 13 平 10. 2. 2 平 11. 3. 29 平 12. 7. 14 平 15. 6. 3 平 21. 1. 16
	鹿児島県薩摩川内市下甑町片野浦地内	8	平 21. 1. 13 平 21. 3. 3
潮害防備	鹿児島県薩摩川内市上甑町中甑地内	12	昭 63. 5. 18
干害防備	鹿児島県薩摩川内市里町里地内	31	昭 56. 5. 20 昭 57. 7. 9 昭 63. 5. 18 平 15. 8. 26
	鹿児島県薩摩川内市上甑町平良地内		1
魚つき	鹿児島県薩摩川内市里町里地内	8	大 2. 4. 8
	鹿児島県薩摩川内市下甑町手打地内	1	明 41. 12. 10
	鹿児島県薩摩川内市下甑町青瀬地内	2	—
保健	鹿児島県薩摩川内市下甑町手打地内	16	昭 57. 5. 12
	鹿児島県薩摩川内市下甑町瀬々野浦地内	25	昭 57. 5. 12

(民有林)

種 類	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
土砂流出防備	鹿児島県薩摩川内市里町里地内	2	昭 61. 5. 12 昭 62. 7. 23 平 1. 1. 23 平 10. 1. 14 平 11. 3. 29 平 12. 7. 14
	鹿児島県薩摩川内市下甑町手打地内		2
土砂崩壊防備	鹿児島県薩摩川内市下甑町長浜地内	3	平 17. 6. 24
干害防備	鹿児島県薩摩川内市里町里地内	5	昭 63. 5. 18 平 15. 8. 26
	鹿児島県薩摩川内市下甑町手打地内		20
魚つき	鹿児島県薩摩川内市里町里地内	3	大 2. 4. 8

## (イ) 鳥獣保護区

名 称	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
県指定鹿島鳥獣保護区	鹿児島県薩摩川内市鹿島町藺牟田地内	186 (うち特保 34)	平 1. 11. 1
県指定鹿島南鳥獣保護区	鹿児島県薩摩川内市鹿島町藺牟田地内	453	平 6. 11. 1

## (ウ) 史跡名勝天然記念物

区 分	名 称	位 置	指定年月日
国指定天然記念物	ヘゴ自生北限地帯	鹿児島県薩摩川内市下甑町	大 15. 10. 27
国指定天然記念物	カラスバト	地域を定めず指定	昭 46. 5. 19
県指定天然記念物	下甑島夜萩円山断崖の白亜系姫浦層群	鹿児島県薩摩川内市鹿島町	平 25. 4. 23
市指定史跡	藺落丘のかくれ念仏	鹿児島県薩摩川内市鹿島町	昭 52. 6. 20
市指定史跡	隠山のかくれ念仏	鹿児島県薩摩川内市里町	昭 56. 3. 6
市指定名勝	瀬尾瀑布 (滝の観音)	鹿児島県薩摩川内市下甑町	昭 48. 4. 1
市指定天然記念物	ウミネコ繁殖地	鹿児島県薩摩川内市鹿島町	昭 52. 6. 20
市指定天然記念物	珊瑚群生地	鹿児島県薩摩川内市鹿島町	昭 52. 6. 20

## (エ) その他

## (海岸保全区域)

名 称	位 置	重複延長 (m)	指定年月日
市之浦地区海岸	鹿児島県薩摩川内市里町地内	400	昭 36. 3. 31
里港海岸	鹿児島県薩摩川内市里町地内	750	昭 55. 10. 17
長目浜地区海岸	鹿児島県薩摩川内市上甑町地内	3, 500	昭 36. 3. 31
桑之浦港海岸	鹿児島県薩摩川内市上甑町地内	850	昭 44. 3. 17
小牟田地地区海岸	鹿児島県薩摩川内市鹿島町地内	726	昭 33. 4. 1
寺屋地区海岸	鹿児島県薩摩川内市鹿島町地内	340	昭 34. 12. 2
中山地区海岸	鹿児島県薩摩川内市鹿島町地内	400	昭 34. 12. 2
小田地区海岸	鹿児島県薩摩川内市下甑町地内	400	昭 36. 3. 31
長浜地区海岸	鹿児島県薩摩川内市下甑町地内	1, 000	昭 33. 4. 1
青瀬地区海岸	鹿児島県薩摩川内市下甑町地内	320	昭 33. 4. 1

### 3 公園区域

甑島国定公園の区域を次のとおりとする。

(表 1 : 公園区域 (陸域) 表)

都道府県名	区 域	面積 (ha)
鹿児島県	薩摩川内市 里町里、上甑町中甑、上甑町中野、上甑町江石、上甑町平良、上甑町小島、上甑町瀬上、上甑町桑之浦、下甑町手打、下甑町片野浦、下甑町瀬々野浦、下甑町青瀬、下甑町長浜及び鹿島町藺牟田の各一部	5,447 (国 28 公 3,365 私 1,768 不※ 286)
	合 計	5,447 (国 28 公 3,365 私 1,768 不※ 286)

※・・・土地所有者不明の意味。(以下同様)

(表 2 : 公園区域 (海域) 表)

都道府県名	区 域	面積 (ha)
鹿児島県	薩摩川内市 上甑町瀬上地先の全部並びに里町里、上甑町中甑、上甑町江石、上甑町平良、上甑町小島、上甑町桑之浦、下甑町手打、下甑町片野浦、下甑町瀬々野浦、下甑町青瀬、下甑町長浜及び鹿島町藺牟田の各地先海面の一部	25,288
	合 計	25,288